

計 量 史 通 信

Communications in Historical Metrology

No.88

一般社団法人日本計量史学会
2023年度定時総会・研究発表会を開催

期日：2023年3月20日（月） 13：00～17：00

会場：日本計量会館 3階 大会議室
〒162-0837 東京都新宿区納戸町 25-1
TEL： 03-3268-4920

会費： 3,000円（研究発表会、会員・非会員）



総会の様子

I. 2023年度 定時総会 13：00～13：30

司会：小川理事

開会挨拶：山田会長

来賓挨拶：一般社団法人 日本計量機器工業連合会
専務理事 小島孔様

議 事

議案1. 2022年度決算(案)、監査報告

報告1. 2022年度事業報告

報告2. 2023年度事業計画、事業予算

総会閉会挨拶：作間副会長



山田会長

II. 講演・研究発表会 13：30～17：00

・特別講演 13：30～15：40

司会：山崎監事

1. 「130年ぶりのキログラムの定義改定」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

計量標準総合センター 計量標準普及センター 藤井賢一 氏



小島専務理事

2. 「日本の質量計測の始まりと弥生社会」

文化庁参事官（文化観光担当）付 博物館支援調査官 中尾智行 氏

※休憩 10 分

3. 「ベトナム度量衡研究について」

大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科 専任講師 関本紀子 氏

・研究発表 15:45 ～ 17:00（各講演 20 分 質疑 5 分）司会：黒須副会長

1. 岩崎 博 祖沖之「綴術」の復元について

2. 谷村 吉久 線度器（物差し）の支点位置－Bessel 点支持は必須か？

3. 松本 榮壽 エジソンの蓄音機とサイエンス-----電気の精の人物を探る-----

※本人の都合により中止とした。

・2023 年度さぐる会の案内（案）溝口事務局長

2023 年 10 月 20 日（金）12:40～17:00

株式会社クボタ 久宝寺事業センター

（大阪府八尾市神武町 2 番 35 号）

内容：工場見学、特別講演会、研究発表会、懇親会

21 日（土）オプションツワー開催

・閉会挨拶：土田副会長



土田副会長

報告事項 1 2022 年度事業報告

I. 会員数

正会員 96 名、賛助会員 1 名、名誉会員 1 名、客員会員 4 名、計 103 名
（入会：19 名）

II. 2022 年度、2023 年度役員

会長 1、副会長 3、理事 10、監事 2

【会長】山田研治、【副会長】黒須 茂、作間英一、土田泰秀

【理事】新井 宏、大井みさほ、小川實吉、篠原光彦、島田好昭
高松宏之、松本榮壽、溝口義浩、横田茂子、横田貞一

【監事】山崎敬則、吉田清

III. 事業関係

1. 定時総会（1 回）

日時： 2022 年 3 月 11 日（金） 13:00～13:40

場所： 日本計量会館 3 階会議室

成立条件：会員（有権者）数 84 名、出席者 12 名、委任状 69 名で総会成立。

議事：次の議案及び報告を諮り承認された。

第 1 号議案 2021 年度決算報告、監査報告

第 2 号議案 2022・2023 年度役員改選

報告事項 1 2021 年度事業報告

報告事項 2 2022 年度予算、事業計画

2. 臨時総会（1回）

日時： 2022年10月15日（土） 14:00～14:20

場所： 一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

成立条件：会員（有権者）数 100名、議決行使権 79名で総会成立。

議事：次の議案及び報告を諮り承認された。

第1号議案 役員辞任に伴う2022・2023年度役員の追加承認

3. 計量史をさぐる会 2022

日時：2022年10月28日（金） 13時～17時

会場：あがたの森文化会館、東洋計量史資料館（長野県松本市）

(1) 会長挨拶 会長 山田研治

主管会長挨拶 当学会副会長（東洋計量史資料館館長） 土田泰秀

来賓挨拶 松本市教育委員会教育長 伊佐治裕子様

（代理 松本市博物館館長 木下 守様）

来賓挨拶 長野県計量協会 会長 長坂 宏様

（代理 長野県計量協会 監事 小川 博様）

(2) 特別講演 司会：溝口義浩

① 「年縞展と山本コレクション」 東洋計量史資料館 館長 土田泰秀

② 「二宮金次郎の生涯の足跡を辿って」（一社）日本計量史学会 副会長 黒須 茂

(3) 研究発表 司会：山崎敬則

（③,④は紙上発表）

① 岩崎 博 「古典的円周率計算法」

② 雨宮高久、市毛幸太郎、田中啓介

「日本と欧米の物理学教科書における運動の第2法則と「力の絶対単位」の比較」

③ 小川 實吉 「計量トレーサビリティの草創 —産業計測標準委員会の活動—」

④ 山田 研治 「佐藤政養と度量衡」 養老律令と天平期の度量衡

⑤

第3部 見学会

東洋計量史資料館見学

(4) 懇親会

司会：黒須 茂

会場：「しずか」（松本市）

4. 機関誌の発行

『計量史研究』

Vol.44 No.1 (No.53) 2022年12月10日発行

目次

解説	計量トレーサビリティの草創—産業計測標準委員会の活動—	小川實吉
研究論文	日本と欧米の物理学教科書における運動の第2法則・運動方程式・力の絶対単位の関連性	雨宮高久、市毛幸太郎、田中啓介
研究論文	須玖遺跡出土の弥生石分銅と同時期の質量についての一論考	山田研治
資料	伊能忠敬による地図の作成と編集における10152という数字	野上道男
講演資料	「年縞展」と「山本コレクション」	
	東洋計量史資料館 館長 (東洋計器株式会社会長)	土田泰秀
講演資料	二宮金次郎の足跡を辿って (一社) 日本計量史学会副会長	黒須 茂

『計量史通信』

No.87 2022年12月20日 発行

- ・「計量史をさぐる会 2022」を開催
- ・公告 令和3 (2021) 年度決算「貸借対照表と損益計算書」及び新役員紹介
- ・2023年度定時総会並びに研究発表会の案内
- ・2023年度定時総会に伴う研究発表会について (公募)

5. 理事会、運営委員会

5-1 理事会 (7回)

第1回理事会

日時：2022年3月11日 (土)

場所：日本計量会館 3階 大会議室

議題：事務局報告、理事・監事役割分担

第2回理事会

日時：2022年4月23日 (土)

場所：日本計量会館 小会議室

議題：事務局報告、役割分担に関して、財政問題・資料部会の創設について、さぐる会の実施について

第3回理事会

日時：2022年6月25日 (土)

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室 (日本計量会館 2階)

議題：理事・監事の辞任の件

第4回理事会

日時：2022年7月3日 (日)

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室 (日本計量会館 2階)

議題：理事・監事の選任の件

第5回理事会

日時：2022年7月31日 (日)

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室 (日本計量会館 2階)

議題：事務局報告、理事・監事の選任の件、さぐる会の件、計量史研究・通信について

第6回理事会

日時：2022年10月15日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

議題：事務局報告、理事・監事承認の件、2023年総会について、さぐる会の件、計量史研究・通信について

5-2.運営委員会（2回）

第1回運営委員会

日時：2022年9月3日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

議題：事務局報告計量史をさぐる会、2022のプログラム確認、計量史研究・通信について

第2回運営委員会

日時：2022年12月17日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

議題：事務局報告、2022さぐる会の総括、計量史研究（Vol.44.No1.(Vol.53)）の発行について、計量史通信87号発行について、2023定時総会と研究発表会の確認、計量史さぐる会2023の計画

第1号議案 2022（令和4）年度 決算報告

損益計算書

一般社団法人 日本計量史学会 2022（令和4年）1月1日から2022（令和4年）12月31日

費用	金額	収益	金額
印刷費（計量史研究）	160,600	会費（一般会費）	661,500
印刷費（計量史通信）	49,610	会費（総会）	0
印刷費（総会）	0	会費（さぐる会）	276,000
印刷費（さぐる会）	55,550	寄付金（特別会費）	21,060
荷物運賃費	32,510	広告収入	0
消耗品費	41,557	頒布金収入	206,185
旅費交通費	30,000	受取利息	12
支払手数料	5,260		
通信費	112,006		
諸会費	0		
会議費（総務）	7,405		
会議費（総会）	0		
会議費（さぐる会）	178,040		
事務所賃借料	332,100		
校閲費	27,400		
租税公課	29,100		
広告宣伝費	66,500		
特別費	15,000		
未収金償却費	0		
正味財産（利益）	22,099		
合計	1,164,757	合計	1,164,757

（明細書）

	人数	金額
1 会費 正会員	83	581,000
2 会費 高齢会員	13	45,500
3 会費 賛助会員	1	35,000
4 会費 名誉会員		
5 前受会費 7,000 円		
6 前受会費 2,000 円		
合計	97	661,500

貸借対照表

一般社団法人 日本計量史学会 2022（令和4年）1月1日から2022（令和4年）12月31日

資産	金額	負債及び財産（純資産）	金額
普通預金（三菱東京UFJ）	1,614,448	未収金償却引当金	16,000
普通預金（三菱東京UFJ）	104,878	前受金	0
普通預金（三菱東京UFJ）	17,721	基本財産	1,866,488
普通預金（みずほ）	7,690	正味財産（純利益）	22,099
普通預金（ゆうちょ）	119,335		
定期預金（三菱東京UFJ）	0		
現金	26,515		
頒布資料	0		
未収金	14,000		
合計	1,904,587	合計	1,904,587

付記 監査報告

令和4年度決算につき、諸帳簿、諸帳票を厳重に監査した結果、適正に処理が行われていることを報告いたします。

令和5（2023）年 1月 5日

監査 吉田 清 印略

監査 山崎敬則 印略

報告1 2022（令和4年）年度事業報告

報告1 2022（令和4年）年度事業報告

事業	回数、刊行	刊行・開催日
定時総会・研究発表会・予稿集	2回	郵便総会2回
計量史をさぐる会・予稿集	1回（1冊）	10月21日刊行
計量史研究の発行	1回（1冊）	12月17日刊行
計量史通信の発行	1回（1冊）	12月17日刊行
関係協力団体への協力	適宜	日本学会会議 著作権協会等調査
理事会・運営委員会	理事会6回 運営委員会2回	
日本計量振興協会展示品調査委員会	適宜	
調査研究テーマ（特定テーマ）	適宜	
会員交流会	適宜	

報告 2 2023（令和 5 年）年度予算と事業計画

2023（令和 5 年）年度事業予算

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
年度会費	595,000	荷造運賃	40,000
賛助会員	35,000	印刷費	280,000
特別会費（総会・研究発表会）	210,000	消耗品費	47,000
特別会費（計量史をさぐる会）	210,000	旅費交通費	30,000
寄付金	10,000	支払手数料	15,000
頒布金収入	80,000	通信費	88,000
広告収入	0	諸会費	0
受取利息	170	会議費	340,000
正味財産（損失）	128,430	事務所賃借料	332,100
		校閲費	30,000
		租税公課	0
		広告宣伝費	66,500
		特別費	0
		未収金償却費	0
合計	1,268,600	合計	1,268,600

2023（令和 5 年）年度事業計画

事業	開催時期	概要
定時総会・講演・研究発表会	年 1 回 予稿集 1 冊 春季	3 月 20 日（月）
計量史をさぐる会	年 1 回 予稿集 1 冊 秋季	（株）ボタ久宝寺事業センター（大阪府八尾市）
計量史研究の発表	年 1 回 12 月	
計量史通信の発行	年 2 回	
関係団体の協力	随時	日本学会議 著作権協会等調査
理事会、運営委員会	理事会 4 回程度 運営委員会 2 回程度適宜	
日本計量振興協会展示品調査委員会	適宜	
調査研究委員会（特定テーマ）	適宜	
会員交流会	適宜	

特別講演・研究発表の概要

特別講演

1. 「130年ぶりのキログラムの定義改定」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

計量標準総合センター 計量標準普及センター 藤井賢一

130年ぶりにキログラムの定義が改定されたことはご存知の通りである。歴史を語るとラボアジェによる1リットルの質量測定に始まる。その後の単位の定義はキログラム原器が採用されたが、この定義を変えることは容易ではなかった。産総研のレーザ干渉計によるシリコン球の直径測定、それによるプランク定数の決定に関し説明を行なった。日本はこのデータの値に精度的に大きく貢献しキログラム、アンペア、モルの定義改定が実現できた。

1889年以来、ようやくアボガドロ定数やプランク定数などの物理定数の測定精度が国際キログラム原器の質量安定性を超えた。キログラムの定義改定には日本の計測技術が大きく貢献した。



藤井賢一氏

2. 「日本の質量計測の始まりと弥生社会」

文化庁参事官（文化観光担当）付 博物館支援調査官 中尾智行

2012年12月「磨石（すりいし）」とされていた大小の円筒形状の石器群が、天秤に用いるおもり（分銅）であるとする論文が奈良文化財研究所の森本晋によって発表された。この発見は日本の計量史を大きく遡らせるだけではなく、弥生時代の生産技術や経済、地域間関係などの社会構造を検討するうえで大きな意味を持っている。その結果、畿内の拠点集落である大阪府の池上曾根遺跡や隣接する観音寺山遺跡、奈良県の唐古・鍵遺跡で、同じく天秤に用いられたと考えられるおもりが見出された。これを使用する秤との関係性から「天秤権（権はおもりの意）」と再定義し、帰属年代の再検討に合わせて集成と分析を行った。また天秤権の特徴・系列及び用途に関して詳細な説明を行った。



中尾智行氏

3. 「ベトナム度量衡研究について」

大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科 専任講師 関本紀子

度量衡研究の端緒、研究の状況、研究の方法の説明を行なった。これまでの研究の成果としては、ベトナム度量衡の歴史、商業統計上の度量衡単位の事例研究、度量衡に関する通達及び各省からの回答分析及び現地での調査である。今後のベトナム研究の方向性としては度量衡を軸として、ベトナムの歴史・社会を構築する。ベトナムの社会変容と伝統的地域性の継承について新たな視座を提供することである。また、現在進行中（構想中）のベトナム度量衡の研究も紹介した。



関本紀子氏

研究発表

1. 祖沖之「綴術」の復元について

日本計量史学会 岩崎 博

西暦7世紀に書かれた中国の「隋書 律歴志 上」には、日本の和算歴史上に大きな影響を与えた5世紀宋の祖沖之（Tsu Chung-Chih、429-500）が「綴術」で計算したとされている円周率が記されている。

① $3.1415926 < \pi < 3.1415927$ ②密率 $355/113$ ③約率 $22/7$

一見ただけではわかりにくいですが、密率と約率の数值は、①式の範囲外である。

∴ (①<②<③)

「綴術」は「隋書」が7世紀に書かれた時には既に失われていたのであるが、祖沖之が「綴術」計算を行った結果、このように (①<②<③) と並べて列記したものと考えられる。この並びを合理的に理解するには「綴術」の復元が必須要件であり、以下の四つのキーポイント（鍵）の検証と考察が必要である。

①「随書」②「九章算術」③ $\sqrt{3}$ の近似方法とその精度④ $\sqrt{3}$ の近似値



岩崎博氏

2. 線度器（物差し）の支点位置—Bessel 点支持は必須か？

日本計量史学会 谷村 吉久

Bessel 点がどのような解析で $l=0.5594L$ という位置になったのかという疑問を持たずに実際の測定においても後輩への指導においても Bessel 点が線度器の支点位置として必須条件であるかのように説いてきた。そして、物差しの自重による撓みの影響が長さに換算してどれくらいあるのか、の具体的な数値計算を全く追求しないままやり過ごしてきた。

そこで、改めて基本にかえり、材料力学の解析により Bessel 点の理論的な検証を行い、これまでのメートル原器や市販の物差しを対象とした具体的な数値計算から線度器全般の Bessel 点の意義について考察する。また、端度器に対する Airy 点の意義にも触れる。

研究では 1~9 までの考察を考えた。一つには材料力学の理論式に基づき、線度器の支点位置 (Bessel points) および端度器の支点位置 (Airy points) を求めることができたことである。



谷村吉久氏

図書紹介

秤と錘の考古学

葉山茂英著、同成社

本書は、発掘調査により出土した秤の錘を通して、原始（弥生時代）から中世（奈良時代から室町時代）までの秤の実態を明らかにすることをめざした著作である。考古学は、発掘調査で出土した遺構や遺物から昔の人々の生活を復元する。日本列島では、木製品（建築資材、農具、食器など）や動植物（トチやクリ、骨角器など）などの有機物は、酸素が遮断される低湿地遺跡など特殊な環境を除いて遺物として残らない。木製であろう秤棹は、まだ発見されいない。そのため秤の考古学的遺物は、耐性のある金属製、石製、土製焼物製の秤の錘（権）にほぼ限定される。

長い考古学の歴史において、秤の研究の蓄積は小さい。それは、奈良時代や平安時代の住居址などから出土する金属製や石製の錘が何であるか、1990年頃まで判明しなかったことによる。発掘調査報告書では、「用途不明品」や「仏教関連遺物」と報告されてきた。ようやく30年前に「秤の錘」として認識されるようになった。さらに出土遺物が錘だけであることも研究の進展が遅れている要因である。また研究対象遺物として、やや地味である。その結果、考古学による秤の研究は、考古学的分析の手法である材質や形状による分類、出土遺跡の分布や特色などに重点が置かれてきた。

ところが2012年に森本晋氏により、大阪府の亀井遺跡出土の磨石（堅果類などをすりつぶす石器）と報告された11個の石器群が、天秤の錘つまり分銅であるとの研究成果が発表された。その根拠は、この石器群が2の累乗の系列をなしていることによる。これは考古学による秤の研究上画期的なものであり、秤の錘の研究に質的分析の重要性を喚起させた。その後、弥生時代の分銅（権）の発見は相次いでおり、福岡県春日市須玖遺跡群の分銅群は大きくマスコミに取り上げられた。

著者は、これまでの考古学による秤の研究が低調であることを踏まえ、弥生時代の秤、奈良時代から室町時代の秤について考古学的遺物である錘を足掛かりとして論を進める。しかし秤の錘からの考古学的手法によるアプローチでは限界があり、度量衡や計量史の研究、中国の秤の研究、文献史学の質量に関する文書記録の研究の成果を積極的に取り入れる。なお本書でも取り上げられているように、古代に属する古墳時代の確実な権衡遺物は確認されていない。古墳時代の権衡遺物については、今後の発掘調査の成果により明らかになっていくものとしている。

本書は、これまでの考古学による秤関係の論考とは様相を異にする。それは、秤の種類、原理、構造などの基本的な内容から解き明かし、その共通理解に立って、各時代の秤の考察や分析をしていることである。こうすることにより、著者による問題点の指摘、考察、分析、仮説の提起などの理解がたやすくなっている。もちろん、それらの当否は、また別の問題である。

重複する点もあるが、以下に本書の特色を列記する。1) 秤には天秤と棹秤の二種類があり、その違いを簡潔に説明している。2) 棹秤の棹の目盛について、目盛付けの方法を含めて原理を詳述している。3) 弥生時代には、天秤だけではなく、棹秤も使用されていたとする。ただし、棹秤の存在については、著者を含めた数名の考古学関係者の主張である。4) 古墳時代の確実な秤の考古学的遺物は出土していない。5) 奈良時代前後から出土する錘は、棹秤用である。以降連綿と昭和40年代まで庶民の秤として使用され



続けた。その質量単位は、公的機関では斤両銖体系、一般庶民は匁体系（1匁=3.75g）である。律令制が機能しなくなる平安時代後期以降の公的機関の質量単位は未解明である。文献史学からの研究の進展が待たれる。6）天秤は、室町時代後期から再使用され始めたと想定され、江戸時代の両替天秤へと繋がる。

著者の葉山茂英氏は、1951年、神奈川県厚木市生まれ。厚木高校を経て明治大学卒業、中央大学大学院修士課程修了。1976年以降、神奈川県内公立中学校・高等学校社会科教諭在職。2017年、東海大学大学院博士課程前期入学。2017年、同大学院博士課程後期満期退学。2021年博士（文学）。

【著者】 葉山茂英

【出版社】 同成社

【発行】 2022年11月24日

【判型】 A5版、234ページ

【定価】 6000円＋税

【ISBN】 978-4-88621-904-6

【目次】

はじめに

第I部 秤の概要と研究史

第1章：秤の概要＝▽秤の種類▽錘の種類と質量体系▽棹秤の目盛付け

第2章：考古学における秤の研究史＝▽弥生時代の秤の研究史▽古代・中世の秤の研究史

第II部 弥生時代の秤

第3章：弥生時代の天秤＝▽基準質量の問題▽弥生時代の分銅の系列▽天秤権製作用天秤▽計量の目的▽天秤の消滅▽亀井遺跡の天秤・分銅の検討▽北部九州と山陰の弥生時代分銅と天秤権状遺物▽少数出土の弥生時代分銅の意味▽福岡県須玖遺跡群出土権の検討

第4章：弥生時代の天秤の源流▽中国に秤の源流を求めて▽中国楚の銅製輪形分銅▽弥生時代分銅の系列▽中国の1斤と弥生時代分銅の関係

第5章：弥生時代の棹秤▽弥生時代の棹秤に関する議論▽原の辻遺跡出土青銅製権▽棹秤の錘の認定基準▽先行研究において棹秤の錘とされる遺物▽錘状土製品と棹秤の錘の関係

第III部 古代・中世の秤

第6章：南関東地方出土遺物の実証的研究▽集成遺物の認定基準と集成遺物一覧▽集成遺物の分析

第7章：南関東地方出土の棹秤の錘の分類試案▽材質による分類▽形状による分類▽垂下方式による分類

第8章：匁体系の成立と継承▽隋・唐の質量体系と文体系の成立▽日本の権衡制度と匁体系の成立▽匁体系の継承

第IV部 結論

第1章：考古学からみた秤▽天秤と棹秤の違い▽弥生時代の秤に関する考察▽古代・中世の秤に関する考察

第2章：秤研究の課題と意義▽今後の課題▽秤研究の意義▽ユーラシア大陸における秤あとかき

さぐる会のお知らせ

「計量史をさぐる会 2023」研究発表の公募

日頃、会員の皆様には当学会の運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。
今年も恒例の「計量史をさぐる会 2023」を開催することになりました。
会員の皆様から振るって 研究発表にご応募いただきたくお願い申し上げます。

研究発表及び展示の応募要領

1. 発表の申込期限：2023年 8月 31日（木）
発表者と講演題目を記入して申込み下さい。発表手段はパワーポイント等でお願ひします。
2. 発表者は予稿原稿を提出して下さい。予稿原稿は、「計量史をさぐる会の予稿原稿の執筆要領」（当学会ホームページに掲載）に基づき作成して下さい。
期限は2023年 9月 15日（金）までお願いいたします。
3. 申込先：下記の事務局宛に、原則として電子メールで期限までに申込み下さい。
申込み先 一般社団法人日本計量史学会（事務局）
〒162-0837 東京都新宿区納戸町 25-1、電話/FAX03-3269-7989、電子メール jim@shm.jp
なお、事務局には常駐者が不在なので連絡は、電子メールまたは FAX でお願ひします。

◇◆◇「計量史をさぐる会 2023」開催（案）◆◆◇

- 1) 実施予定日 2023年 10月 20日（金）
- 2) 場 所 (株)クボタ 久宝寺事業センター (大阪府八尾市神武町 2番 35号)
- 3) 行程（案）

12：10「さぐる会」	受付開始
12：40～13：00	開会式
13：00～14：00	工場見学
14：10～15：30	講演会（クボタ、村上衡器製作所）
15：40～17：00	研究発表
17：30～19：10	懇親会 八尾市内レストラン

- 4) オプションツアー

10月 21日（土）
パナソニック ミュージアム見学
集合 10:10 パナソニックミュージアム正門 松下幸之助の銅像前集合
(雨天の場合は、松下幸之助歴史館エントランスホール)
見学時間 10：10～12：00 入館料 無料

お知らせ)

計量史通信の書式が事情により変更になりました。ワードで作成することになり、少し読みにくいところもありますが、ご容赦願ひします。

目 次

日本計量史学会 2023年度総会・研究発表会を開催	1
講演・研究発表の概要	9
図書紹介 秤と錘の考古学	11
さぐる会のお知らせ	13

「計量史通信」の原稿を募集します

人間を中心とした「計る」という行為は人文科学・社会科学・自然科学・文化芸術に限らず、過去・現在・未来のあらゆる行動に関係があります。これらに関係ある原稿を募集しております。種別は総説・論文・書評・原典の翻訳、解説・紹介・紀行、各種資料等、長短を問いません。

編集日程は通常、以下のようになっていますので、ご協力の程をお願いいたします。

原稿受理期間 6～9月、校閲・編集期間 9～10月、印刷・校正期間 11～12月、年内配布を目標。

○現在、当学会における編集は、編集部が行っております。

「計量史研究」に投稿された原稿は、主として理事及び理事選定の委員が校閲に当たっております。更に内容によって、専門域に応じた他の正会員に依頼しております。

「計量史通信」の原稿を募集します

総説、随筆、速報、紀行等の計量に直接、間接関係のある博物館・資料館・美術館・図書館の催し、書評、会員の研究ないし、調査内容の紹介、会員、非会員からの質問（答は原則として通信に掲載します）、その他のニュースなどが主なものです。特に「催し物」は計画段階の漠然としたものでも結構です。締切はなく、常時受付けます。

●複写される方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F 学術著作権協会

TEL : 03 - 3475 - 5618 FAX : 03 - 3475 - 5619 E-Mail : jaacc@mtb.biglobe.ne.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright clearance by the copyright owner of this publication.

< Except in the USA >

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Phone 81-3・3475-5618 FAX : 81-3-3475-5619 E-mail : jaacc@mtb.biglobe.ne.jp

< In The USA >

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone : (978) 750-8400, FAX : (978) 750-4744 <http://www.copyright.com/>

2023年7月22日発行

一般社団法人日本計量史学会

〒162-0837 東京都新宿区納戸町 25-1

TEL/FAX : 03-3269-7989

E-mail: jimushmj.jp

[URL: http://www.shmj.jp](http://www.shmj.jp)

郵便振替番号 東京 00170-9-66974

The Society of Historical Metrology

JAPAN

25-1, Nando-cho

Shinjyuku-ku, Tokyo 162-0837 JAPAN

TEL, FAX : +81-3-3269-7989

jimushmj.jp